

[015_01] 九州大学理学部研究報告. 地質学

<https://hdl.handle.net/2324/4495625>

出版情報 : 九州大学理学部研究報告. 地質学. 15 (1), 1987-03-15. 九州大学理学部
バージョン :
権利関係 :



R. Takahashi

高橋良平先生に捧げる

高橋良平先生は大正12年8月10日福岡市にて出生、本年63歳の誕生日を迎えられ、来る昭和62年の春に九州大学理学部を退職され、引きつづき4月1日から学長職に専念される予定であります。

先生は昭和18年10月、九州帝国大学理学部地質学科に入学し、松下久道教授のもとで石炭地質学を専攻され、昭和21年9月卒業と同時に麻生鉱業(株)に入社され、昭和22年5月から同23年4月まで、会社在籍のまま九州大学工学部副手嘱託として勤務されました。その後昭和27年3月、九州大学理学部講師として招かれ、同28年助教授に昇任、松下教授を助け、石炭地質学の教育と研究の発展に尽力されました。昭和47年に石炭地質学担当教授に昇任され、現在に至っております。この間35年の永きにわたり、九州大学において石炭地質学とその関連分野の研究と後進の指導ならびに教室の発展に専念され、多くの業績を残されました。

先生のこれまでの研究業績は3つの分野に分けられます。第1は野外地質調査を基礎とする正統な地質学を導入した石炭地質学の研究で、恩師松下教授の伝統を受けつがれたものであります。先生は九州各地の炭田地質を始め、国内各地の含炭・夾炭古第三系の層序、地質構造の究明、ならびに地史の解明に精力を注ぎ、優れた学術的貢献をされました。その成果は学会で高く評価されると同時に、石炭業界の間でも指導的役割を果たしてされました。

第2は反射顕微鏡的手法による石炭組織の研究であります。先生は昭和31年～33年、および昭和50年の2回にわたって、西独ボン大学、および州立地質調査所に留学され、スタッフ、マコウスキー両教授のもとで、石炭組織の反射顕微鏡による基礎的研究を習得され、この分野の研究をわが国に導入された先駆者の1人です。今日の日本の石炭組織学の創始者として、讃えられております。

第3は九州各地の炭田の主要炭層の石炭化度の研究であります。本研究は炭田の堆積史、構造発達史、変成史を解明するために重要な研究方法の1つであり、石炭地質学のみならず石油地質学の分野にも広く応用されています。さらに最近では、石炭の蛍光顕微鏡的手法を導入し、石炭および石油の熱成変化の研究方法を開発され、学界はもちろん石炭、石油業界でも高く評価されております。

また、先生は「国際石炭組織委員会」の委員でもあ

り、国際専門誌“Coal Geology”の国内編集委員をも兼務されております。

学内においては、昭和51～54年、59～61年の間、九州大学評議員、その外学生部参与、大学院委員会委員、石炭研究資料センター委員等の大学の各種委員を務められ、昭和49～55年まで、理学部附属島原地震火山観測所長として、同所の管理運営および研究体制の整備に尽力されました。とくに、昭和55～57年には理学部長として、学部の運営・発展に貢献され、さらに、昭和61年11月7日から第18代九州大学長として就任される予定であります。また、東京大学、東北大学、北海道大学、名古屋大学、島根大学、熊本大学等の講師として、多くの学生の教育と指導に尽力してこられました。

一方、学外においては、燃料協会理事、応用地質学会九州支部副支部長、九州土質工学会評議員、九州炭坑技術連盟評議員、通商産業省鉱業審議会委員、同省鉱害科学調査委員等を務められ、また、ドイツ留学の経験から九州フンボルト协会会长、西日本日独協会副会長を務められています。近年、日中石炭地質学の国際交流をすすめる、山東鉱業学院との国際交流の実現に貢献され、昭和61年10月から開催される九州大学国際石炭研修コースのリーダーとして、諸外国からの研修員の教育・指導にあたっておられます。

先生は生来、明朗闊達で、社交性に恵まれ、速決速断を好まれる反面、大学人としては珍らしい豊富な常識と知識を持っておられ、広い視野をもって、研究と教育、および管理運営に取り組みされてこられました。その成果は、研究・教育面をはじめ、大学および学外において遺憾なく発揮されております。先生が蒔かれた種子と育まれた環境がさらに成長し、発展するよう残されたわれわれの努力が必要であります。先生には今後ますます御健勝で、後進の御指導、御鞭撻と、九州大学の管理運営に邁進されることを祈ってやみません。

昭和61年10月31日

九州大学理学部地質学教室

廣 渡 文 利
外 一 同

高橋良平教授略歴

大正12年8月10日 福岡県に生れる

学歴・資格

昭和18年9月 福岡高等学校理科卒業
 ” 21年9月 九州帝国大学理学部地質学科卒業
 昭和35年4月 理学博士（主論文 Die Beziehung zwischen der Inkohlung und der geologischen Struktur im Nord-Kyushu Kohlenbecken.）

職歴・併任

昭和21年10月 麻生鉱業株式会社入社
 ” 22年5月 九州帝国大学工学部副手
 ” 27年3月 九州大学理学部講師
 ” 27年6月 福岡通商産業局技官（併任）
 ” 28年1月 九州大学大学院理学研究科授業担当
 ” 28年12月 九州大学理学部助教授
 ” 35年4月 九州大学分校講師（併任）
 ” 36年6月 熊本大学理学部講師（併任）
 ” 38年4月 九州大学教養部講師（併任）
 ” 44年4月 九州大学教養部講師（併任）
 ” 47年4月 九州大学理学部教授石炭地質学講座担当
 ” 47年4月 九州大学大学院理学研究科担当
 ” 49年4月 九州大学理学部付属島原火山観測所長（併任）
 ” 50年12月 名古屋大学理学部講師（併任）
 ” 51年4月 東北大学理学部講師（併任）
 ” 54年4月 東京大学理学部講師（併任）
 ” 55年2月 九州大学理学部付属島原火山観測所長事務取扱（併任）
 ” 55年4月 九州大学理学部付属島原火山観測所長（併任）
 ” 55年7月 九州大学理学部長（併任）
 ” 55年7月 九州大学大学院理学研究科長
 ” 57年7月 九州大学理学部付属島原火山観測所長（併任）
 ” 58年10月 鹿児島大学理学部講師（併任）
 ” 58年10月 北海道大学理学部講師（併任）
 ” 59年4月 九州大学理学部付属島原地震火山観測所長事務取扱
 ” 59年7月 九州大学理学部付属島原地震火山観測所長（併任）
 ” 61年6月 島根大学理学部講師（併任）
 ” 61年11月 九州大学長

嘱託・委員等

通商産業省地下資源開発審議会専門委員（昭和31年

～36年）

通商産業省鉱害調査員（昭和36年～61年）
 通商産業省鉱業審議会専門委員（昭和37年～61年）
 福岡鉱山保安監督局硬山対策連絡会議委員（昭和38年～39年）
 福岡通商産業局仲介委員会委員（昭和41年～51年）
 福岡鉱山保安監督局硬山法面保護委員会委員（昭和44年～47年）
 九州大学粕屋地方演習林地盤調査専門委員会委員（昭和46年）
 福岡通商産業局海底砂品質状況調査委員（昭和47年～48年）
 福岡鉱山保安監督局高温対策委員会委員（昭和47年～50年）
 九州大学学生部参与（昭和48年～50年）
 九州大学保健管理委員会委員（昭和49年～50年）
 九州大学学生会館委員会委員（昭和49年～50年）
 九州大学評議員（昭和51年～54年）
 通商産業省石炭鉱業審議会専門委員（昭和52年～60年）
 福岡通商産業局九州地方鉱業協議会委員（昭和53年～61年）
 九州大学石炭研究資料センター委員会委員（昭和54年～61年）
 九州大学入学試験審議会委員（昭和54年～55年）
 九州大学大学院委員会委員（昭和55年～57年）
 九州大学評議員（昭和55年～57年）
 九州大学教養部審議会委員，同国際交流委員会委員，同原子力委員会委員，同施設委員会委員，同入学試験審議会委員，同情報科学委員会委員，同生物環境調節研究センター委員会委員（昭和55年～57年）
 福岡通商産業局大和干拓地盤沈下等原因調査委員会委員（昭和57年～61年）
 九州大学国際交流委員会第一専門委員会大学間交流特別委員会委員（昭和58年～59年）
 九州大学評議員（昭和59年～61年）

学会役員

燃料協会理事（昭和57年～現在）
 日本応用地質学会評議員（昭和59年～60年；61年～62年）
 日本応用地質学会九州支部副支部長（昭和59年～現在）
 土質工学会九州支部評議員（昭和47年～現在）
 自然災害科学西部地区部会長（昭和57年～61年）

高橋良平 (Ryohei TAKAHASHI) 著作目録

A 論文等

1. 1949: 吉隅三坑三卸大焼層の石炭岩石学的基础研究. 九州技連, 2, (3).
2. 1950: [松下久道・井福秀夫・高山久雄・山本栄一と共著] 天草炭田の地質. 地質雑, 55, 648-649.
3. 1953: 石炭岩石学の対比の二・三の問題. 九大理研報 [地質], 4, (2), 59-79.
4. 1953: [植田芳郎・岩橋徹と共著] いわゆる杵島層群について (杵島層群の研究その1). 地質雑, 59, (694), 359.
5. 1955: [小原浄之介と共著] 海底炭田探査の一方方法, 高島炭田砂岩のペトログラフィ. 鉱山地質, 5, (15), 33-47.
6. 1955: Charaktereigenschaften der Kyushu Kohle (Japan) Insbesondere der Menashi-Kohle in dem Shingoshaku Kohlenlager. *Jour. Geol. Soc. Japan*, 61, (723), 589-597.
7. 1956: [松下久道と共著] 九州炭の炭質と堆積盆地との関係の一考察 (予報), 九鉱誌, 24, (1), 20-25.
8. 1956: [松下久道・小原浄之介・岩橋徹・井上英二と共著] 北九州古第三紀層の地質について. 有孔虫, 5, 13-22.
9. 1957: [植田芳郎・岩橋徹と共著] 杵島層群の研究 (その2). 地質雑, 63, (739), 207-216.
10. 1958: Die Beziehung zwischen der geologischen Struktur und der Inkohlung in Chikuhō-Kohlenbecken, Japan. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D. Geol. 8, (1), 1-18, 1-4 pls.
11. 1958: [E. STACH と共著] 液化メチレン浸液による日本炭の組織研究. 燃料協会誌, 37, (374), 351-360.
12. 1958: Das Mikrobild Japanischer Kohlen unter der Methyleniodid-Immersion. *Brennstoff-Chemie*, 15/16, 225-256, Bd. 39.
13. 1959: [松下久道・高井保明・浦田英夫・岩橋徹・小原浄之介・富田宰臣・太田一也と共著] 天草下島における白亜系と古第三系の境界について. 有孔虫, 10, 30-41.
14. 1959: Die Beziehung zwischen der Inkohlung und der geologischen Struktur im Karatsu-Kohlenbecken, Saga Pref., Japan. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D. Geol. 9, (1), 1-15.
15. 1959: Die Beziehung zwischen der Inkohlung und der geologischen Struktur im Amakusa Kohlenbecken. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D. Geol. 9, (2), 95-118.
16. 1959: 石炭化作用よりみた唐津炭田の天草型地質構造. 鉱山地質, 9, (37), 287-296.
17. 1959: 北部粕屋炭田の古第三紀層と本組層の石炭組織. 九鉱誌, 27, (11), 504-512.
18. 1959: 唐津・天草両炭田における石炭化作用と地質構造との関係. 石炭利用技術会議会議録, 26-31.
19. 1960: 日本炭の炭質に及ぼす地質構造の影響. 燃料協会誌, 39, (401).
20. 1962: コークスの基礎研究 (1) 特に軟化現象の研究. 燃料協会誌, 41, (418), 129-137.
21. 1964: [松下久道と共著] 大分県大野郡一南海部郡中ノ谷峠付近の地質. 九大理研報 [地質], 7, (1), 57-60.
22. 1964: [竹下健次郎と共著] コークス化過程の基礎研究 (2). 燃料協会誌, 43, (444), 241-252.
23. 1964: [竹下健次郎と共著] コークス化過程の基礎研究 (3) 超音波併用高周波炉によるコークス化. 燃料協会誌, 43, (452), 859-871.
24. 1965: 熊本県天草郡, 下島, 富岡半島の地質. 九大理研報 [地質], 8, (2), 73-81.
25. 1965: [竹下健次郎と共著] コークス化過程の基礎研究 (4) 超音波併用高周波炉コークス化. 燃料協会誌, 44, (469), 815-821.
26. 1966: [松下久道・小原浄之介・浦田英夫・北条凱生と共著] 石炭の堆積環境の再検討. 日本鉱山地質学会研究討論会資料, 77-85.
27. 1966: コークス化過程の基礎研究 (5) 超音波のオリテーション効果. 燃料協会誌, 45, (476), 892-897.
28. 1967: Nigger-Head より考察される天草炭の石炭化作用. 佐々保雄教授還暦記念論文集, 477-493.
29. 1969: 天草炭田の造構運動と石炭化作用. 燃料協会誌, 48, (512), 861-868.
30. 1969: 石炭組織学の立場からみたコークス強度推定法の問題点. 燃料協会誌, 48, (512), 928-934.
31. 1969: 松岩の成因に関する2・3の考察. 九大理研報 [地質], 12, (1), 1-10.

- 理研報〔地質〕, 9, (1), 45-51.
32. 1969: [with T. NOGUCHI and Y. TOKUMITSU] Small sinking holes in limestone area with special reference to drainage of coal mines. *Association Internationale d'Hydrologie Scientifique Actes du colloque de Tokyo*, Sept., 1969, 467-474.
 33. 1969: [with T. NOGUCHI and Y. TOKUMITSU] Consolidation phenomenon caused by mine drainage in the area outlying from working place. *Association Internationale d'Hydrologie Scientifique Actes du Colloque de Tokyo*, Sept., 1969, 475-482.
 34. 1969: [with T. NOGUCHI and Y. TOKUMITSU] On the compression subsidence of peat and humic layers in the Kami-Shinbashi area, Kurate-Machi, Kurate-Gun, Fukuoka Prefecture. *Association Internationale d'Hydrologie Scientifique Actes du Colloque de Tokyo*, Sept., 1969, 451-466.
 35. 1971: [首藤次男と共著] 九州の新生代地史. 日本地質学会他5学会連合シンポジウム, 5-10.
 36. 1971: [浦田英夫・小原浄之介・富田幸臣・太田一也と共著] 新知見に基づく筑豊炭田の地質構造. 九大理研報〔地質〕, 11, (1), 115-132.
 37. 1971: Über den Entstehungsprozess der Kristallite in Pech-, kohlen- und Naturkoks. *Compte Rendu; 7 Internat. Kongress für Stratigraphie und Geologie des Karbons, Krefeld*, 163.
 38. 1971: [with K. TAKESHITA, T. MIKI and H. MOROTOMI] Über den Werdegang der Kristallite in Pech-, Kohlen- und Naturkoks. *Compte Rendu; 7 Internat. Kongress für Stratigraphie und Geologie des Karbons, Krefeld*, 4, 281-288.
 39. 1974: [竹下健次郎と共著] ピッチークス球晶の挙動. 燃料協会誌, 53, (572), 1044-1051.
 40. 1975: [with I. MOCHIDA, K. KUDO, N. FUKUDA and K. TAKESHITA] Carbonization of Pitches-IV, Carbonization of polycyclic aromatic hydrocarbons under the presence of aluminum chloride catalyst. *Carbon*, 13, 135-139.
 41. 1975: [富田幸臣・山下明夫・石橋澄・三木孝・首藤次男・浦田英夫・橋本勇・本座栄一・五十嵐千秋と共著] 対馬西方海域の海底地質. 九大理研報〔地質〕, 12, (2), 77-90.
 42. 1975: [with K. TAKESHITA] Die Rolle und das Verhalten der Sphärolithe beim Kristallisationsvorgang in Kohlen- und Pechkoks. *Compte Rendu 8 Congres International, de Stratigraphie et de Geologie du Carbonifere*, Moskow, 1975, 70-78.
 43. 1976: 石炭の続成作用についての最近の知見. 地球化学, 10, 58-60.
 44. 1977: 二, 三の日本炭の螢光顕微鏡の特徴. 九大理研報〔地質〕, 12, (3), 243-247.
 45. 1978: 螢光顕微鏡による石炭の新マセラル. 石炭の高度利用の基礎研究に関する現状調査(石炭科学研究助成会) 石炭技術研究所, 115-124.
 46. 1978: 二, 三の北九州炭田のバリヤル・ヒストリー. 地質学論集ダイジェネシス, 15, 223-232.
 47. 1978: 石炭層の生成と変遷. 燃料協会誌, 58, 102-111.
 48. 1980: [田代昭雄と共著] 新潟地域に分布する新第三系のオルガノ・ペトログラフィ. 九大理研報〔地質〕, 13, (2), 307-319.
 49. 1980: 九州第三紀炭田の生成・発展にかかわる地質学的諸問題. 岩鉱床学会誌特別号, 2, 189-200.
 50. 1980: 有機・無機物質からみた天草古第三紀層の続成・変成作用. 地球化学, 14, 1-6.
 51. 1980: 九州北・西部炭田に分布する古第三紀層のオルガノ・ペトログラフィ. 54年度科研費(一般C)研究成果報告書, 1-7.
 52. 1980: [with T. MIKI] Heavy-mineral analysis of sediments from the deep sea drilling project transect of the Japan Trench, Legs 56 and 57. *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project*, 56, 57, 1019-1025.
 53. 1981: 中国炭の開発と地質. 燃料協会誌, 60 (648), 237-252.
 54. 1984: [with K. MATUBARA and T. MIYAZU] Usage of the Gondwana coal for metallurgical coke-making in Japan. *Comun. Serv. Geol. Portugal*, (Symposium on

- Gondwana coals, Lisbon, 1983), 70, 161-173.
55. 1985: [with S. TOMITA] Solid bitumen dyke in granite and schist. Proceedings, 1985 International Conference on Coal Science, Sydney, 612-615.
 56. 1985: 石炭岩石学の他分野への貢献. 地質雑, 94, (7), 40-48.
 57. 1985: 1984年島原群発地震の活動と被害に関する総合調査. 第22回自然災害科学総合シンポジウム要旨集, 55-65.

B 調査報文等

1. 1958: パリー国際学会に参加して. 炭研, 9, (9), 257-269.
2. 1985: 中国炭鉱見聞記. エネルギー史研究 (九大石炭研究資料センター), 13, 227-232.
3. 1985: 低石炭化度の組織成分の分類および分析法. 日本鉄鋼協会コークス化特性部会, 5-32.
4. 1985: 欧州諸国における石炭資源探査に係る政策等の動向調査. 新エネルギー総合開発機構, 1-247.

C 著書・編集・執筆分担等

1. 1961: 日本地質鉱床誌, 第9巻, 九州地方 (木下亀城編), 695頁, 朝倉書店.
2. 1977: 石炭資源とその利用技術, (科学技術庁資源調査所監修), 44頁, 資源協会.
3. 1981: 石炭資源開発・液化技術 (森川清・本田英昌監修), 804頁, サイエンス・フォーラム.
4. 1984: 石炭利用技術用語辞典 (社団法人燃料協会石炭利用技術用語辞典編), 357頁, コロナ社.